

第12期 環境市民会議（第2回） 議事要録

開催日時	令和4年8月30日（火） 19時～20時
場所	武蔵野市役所412会議室
出席者	鈴木委員長、小川副委員長、石射委員、小餅委員、竹嶋委員、藤乗委員、山中委員、吉澤委員、朝生委員
内容	1 委員の交代について 2 議題：令和3年度版 武蔵野市の環境保全（案）について 3 報告事項：気候市民会議について 4 その他

1 委員の交代について

東京電力パワーグリッド株式会社 藤野 一委員の後任として、吉澤 淳子委員が着任した。

2 議題

(1) 令和3年度版 武蔵野市の環境保全（案）について

発言者	発言要旨
委員長	<p>経年変化を追うため、同じフォーマットを使用することは妥当である。</p> <p>ただし、武蔵野市の環境について、複数の視野から考察することは必要と考える。それを踏まえ、環境要素を個別に考察するだけでなく相対的な考察をすること、また、定量的な経年変化を追い、市の代表的な指標とすること、さらに、P65の雨水貯留槽購入助成制度など、設置後もその効果が次年度以降に継続する性質のものについては、単年度の指標だけでなく累積的な指標を用いることを提案するが、いかがか。</p>
事務局	<p>定量的指標による考察については、ご指摘のとおりと考える。累積指標については、各課が持つ個別計画の成果をうまく年次報告に落とし込めるように工夫したい。</p>
A委員	<p>①P8：<環境方針2>2点目に記載のある、1人1日当たりのごみ排出量の令和3年度目標値はいくつか。</p> <p>②P48：D. これまでの大気環境>b表の光化学オキシダントの1時間値が0.06ppmを超えた時間数の割合について、令和3年度の割合は正しいか。令和2年度と比較した時、令和3年度の方が時間数が多いにも関わらず割合が低いことに違和感がある。</p> <p>③P65：項目104「透水性舗装の整備」において、令和3年度実績（442㎡）が激減した理由は何か。</p> <p>④P68：事業所としてのエネルギー使用量やごみ排出実績の表において、令和3年度のガス使用量増加の要因は何か（コロナ禍前の令和元年度と比較しても増加しているため）。</p> <p>⑤P74（2）令和3年度温室効果ガス排出量の記述において、廃プラスチック量の増加が温室効果ガス排出量増加の主な要因とあるが、どれくらい廃プラスチックが増えたのか、割合をお示しいただきたい。</p>
B委員	<p>①について、目標値は637gとしている。</p>

事務局	<p>②については、確認して後日回答する。</p> <p>-以下、後日回答要旨-</p> <p>令和2年度の割合は正しく、令和3年度の割合に誤りがあった。正しくは、「4.5%」である。なお、市の公害測定室で使用している大気関係の測定機器は、原則24時間測定しているが、機器の定期的な点検、あるいは突発的な停電等で欠測時間が発生するため、年度により年間の総測定時間数には変動があることから、割合を算出する分母の時間数にも変動がある。そのため、1時間値が0.06ppmを超えた時間数が他年度に比べて多いことが他年度に比べて割合が高くなることに直結するわけではない。</p>
事務局	<p>③について、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、事業の見直しを行ったものもあるためと考える。</p>
事務局	<p>④について、電気使用量の増加と同じく、事業活動の再開が要因と考えられる。特に学校の空調設備はGHP（ガスヒートポンプエアコン：ガスをエネルギー源としたエアコン）の場合が多く、換気しながら空調を使用したという点で、ガス使用量が増加したと考えられる。</p>
事務局	<p>⑤について、廃プラスチックの比率は、令和2年度は32.7%、令和3年度は37.3%に増加している。</p>
B委員	<p>ごみの排出量について、令和元年度以降、全体として増加傾向にある。コロナの影響か、家庭ごみは増加、事業者ごみは減少傾向である。ただし、令和2年度と3年度を比較すると、ごみの焼却量はそれほど変化していない（増加率で言うと約100.1%）。一方、廃プラスチック類は117%の増加率である。</p>
A委員	<p>これは、感想となるが、前年と比較し温室効果ガスが増加したことは大変なことだと感じた。</p>
委員長	<p>武蔵野市ではごみ発電を行っており、廃プラスチック類が可燃ごみに混入しても、電力になるという特性がある。一方で、都では廃プラスチック類の焼却は推奨されていない。市としてどのような方針か。</p>
事務局	<p>一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）の中で検討を進めている。「プラスチック新法」が2022年4月から施行されたことを受け、自治体と事業者が連携しワンウェイプラスチックを資源化することを検討しているが、対応できる事業者が限られているのが現状である。他自治体や様々な動向を注視し検討を進めていくようになるのではないかと考えている。</p>
副委員長	<p>取得したデータを長期的視点で考察すること、ブレイクダウンすることが必要である。例えば、質疑に出た廃プラスチック量増加の影響の大きさが、P74の表からは読み取れない。関連するデータを合わせてグラフ化し、長期的なトレンドを見ないと、今後何をすべきかということが見えてこない。データを可視化することで、どこに投資したらいいのか見分けやすくなる。</p> <p>「2050年ゼロカーボンシティ」という定量的な目標を表明しているのだから、過去のフォーマットに捉われず、科学的に分析できる方向に転換してもいいのではないかと考える。</p> <p>実は、この報告書には関連するデータが散見され、例えばムーバスの利用状況は外出頻度や経済活動に密接に絡むデータであるため、これをP74の温室効果ガス排出量の分析に含めれば、もう少し多角的に見られるようになるのではないかと考えている。</p>

3 報告事項

(1) 気候市民会議について

発言者	発言要旨
委員長	温室効果ガスの即時削減につながらないとしても、市民一人ひとりの行動変容に働きかける会議が、むさしのエコreゾートで開催されたことに意義を感じる。 報道でも取り上げられているので、他自治体または都・国レベルで気候市民会議が開催されるといった波及効果は期待される。また、会議は始まったばかりで単年度の予定ではあるが、この会議の持続性がどれくらいあるのか、続ける場合に具体的なテーマを設けた会議にするのか、といったことが今後の課題となるのではないかと。
事務局	引き続き、11月まで会議を開催し、「気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）」につなげていきたい。
C委員	啓発の場としては有意義だと思うが、会議の中で出てきた意見は現行の温暖化対策実行計画等に反映するのか。ヨーロッパにおける気候市民会議は、政策提言の場と理解している。
事務局	温暖化対策実行計画は策定したばかり（2021年度策定、2022年度改定）であり、環境市民会議での審議及びパブリックコメントを通し、市民の意見が反映されているものと認識しているため、気候市民会議の意見をすぐに反映することは考えていない。ただし、計画内に記載されている具体的施策について、市に後押ししてほしいことを気候市民会議の中で拾い上げ、反映していきたい。
D委員	「市民の声が反映されるんだ」と思うことができるため、結果を示してもらうことが大事である。

4 その他

(1) 次回の日程等について

事務局	次回は令和5年1月に開催したいと考えている。気候市民会議の市民意見をまとめた気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）について諮る予定である。
-----	--